

# 埼玉大 ストーリー

経済経営系大学院  
Saitama School of Economics & Management



## 埼玉大学の大学院って、実際どんな場所なの？

大学院への進学を検討しているものの、大学院での生活が不安な方や修了後の進路が思い描けない方もいらっしゃるでしょう。そこで、埼玉大学大学院を修了した学生の皆様にご協力いただき、修了後のご活躍の様子について教えていただきました。

### 第2回

## 仕事と両立できる大学院生活 大学院の学修を社会で活かす修了生

第2回目は、社会人としてお仕事を続けながら大学院で研究し、埼玉大学大学院博士後期課程を修了後もその知見を活かしてご活躍されている修了生にお話を伺いました。



Kさん

博士後期課程修了生（2020年度）  
在学中から化粧品会社勤務



長谷部 賢さん

博士後期課程修了生（2025年度）  
在学中から政府系金融機関に勤務

## まずは、お二人が埼玉大学大学院へ入学された経緯、 博士号取得を決めたきっかけを教えてください。

### >Kさん

私は、2020年度に博士後期課程を修了しました。大学院への入学は、2012年に社命によって社史編集プロジェクトの一員となったことが大きなきっかけでした。社の動きを全く知らないばかりか、本来身につけておくべき本質的な知識を欠いていることに、焦燥感と反省を覚えまして…。当時の上司と相談し、会社の理解も得られ、2013年4月に博士前期課程に入学いたしました。

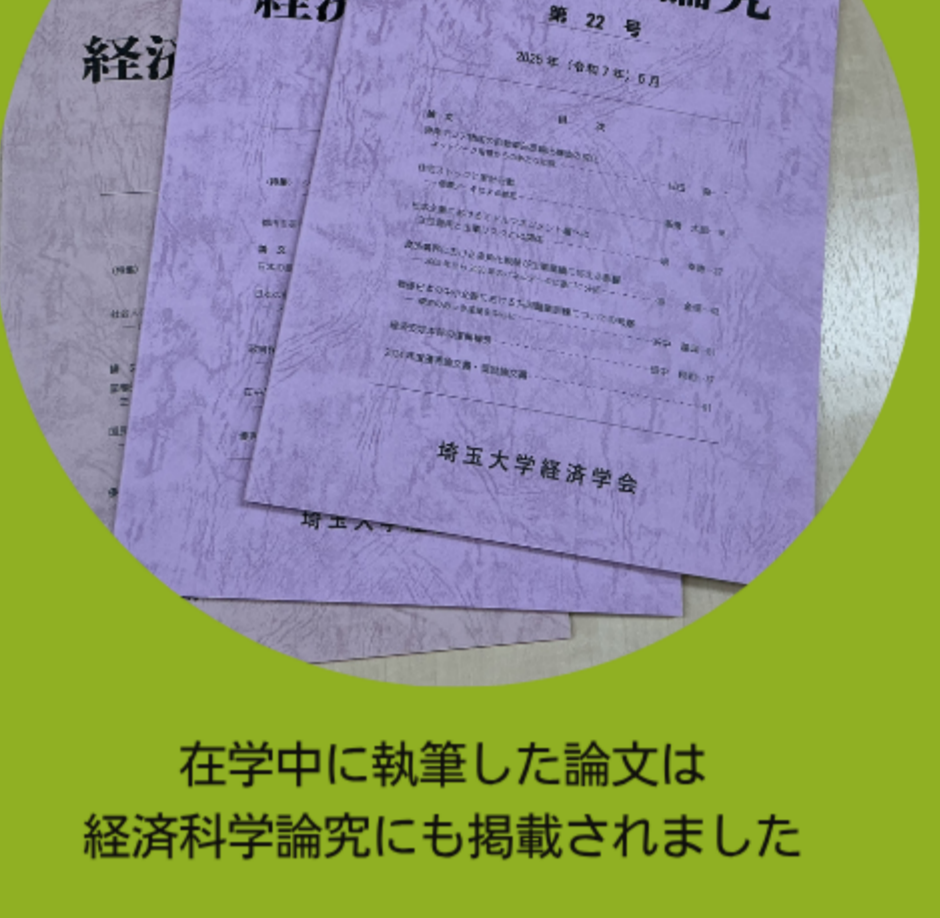
埼玉大学大学院に決めたのは、（神田にある）サテライトキャンパスでほとんどの講義を受けられるという利便性、そして国立大学の比較的安価な授業料が背景にあります。それと、個人的に、業務を通じて名前を知っている先生がいらっしゃったことで、親近感がありました。



修了後も研究会で集まる機会があります

修士課程に入学して2年目からは、修士論文の執筆も本格化していくのですが、何度もご指導をいただくうちに、博士後期課程に進学してもうちょっと研究を続けたいなぁ、という気持ちが徐々に強くなりました。

そこでもう一度、上司と話し合いをして、自社の歴史研究を進めたいということで会社の理解も得まして、博士後期課程を受験しました。主指導は引き続き、大石直樹先生に、副指導は井原基先生と水村典弘先生にお願いしました。



在学中に執筆した論文は  
経済科学論究にも掲載されました

### >長谷部さん

私は、博士後期課程から入学しまして、2025年度に博士号を取得いたしました。博士後期課程への進学を決めた背景は、それまで長く銀行で携わってきた業務に対して、アカデミックな理論に基づく知識を取得したいと考えたからです。

具体的には、「評価認証融資(企業の非財務情報を評価し、その評価に応じて融資条件を決定する金融商品)」といった業務に携わるなかで、非財務情報の開示が企業価値向上にどういった影響を及ぼすのかを実証分析し、その効果を解明したいと考えたことが最大のモチベーションでした。

仕事と両立できる社会人向けの大学院を調べたところ、本大学院を卒業された職場の先輩から、理想的な環境であることを聞きました。加えて、職場とキャンパスへのアクセスが良く、通勤経路と一致している点も良かったです。

なお、私は修士課程を別の大学院で終了しており、テーマは博士論文と異なるものですが、本大学院入学前に博士論文の中核となる査読付論文がありましたので、幸い博士課程を2年で修了させていただきました。

## 博士課程で得られたことや、 博士課程の間に印象的なことはありますか？

### >Kさん

当時は、時間ぎりぎり（神田にある）サテライトキャンパスに飛び込み、講義終了後は社にとんぼ返りして業務を続けるということもありました。

研究を進めるうえで、先行研究や文献の整理、読み込みは必須です。入学当初は、一冊の書籍を読むことすら億劫に感じることもありましたが、次第に研究テーマや手法が明確になり、それからは、収集した資料からエビデンスを掘り起こすことに夢中な毎日を過ごしました。これは本当に面白かったです。研究を続けることの苦しさと同時に、それ以上の喜びと楽しさを知りました。それから、講義やフロアで隣り合わせになった異業種の方々と交流して、私が持っていなかった視点や気づきを得ることが多くありました。



研究会での研究報告の様子

### >長谷部さん

社会人の皆さまにとっては、どのようにして仕事と両立し、論文執筆の時間を捻出するかがもっとも悩ましい問題だと思います。博士論文ともなれば、優に100ページを超える論文をまとめる必要があります。研究の進め方は人それぞれで、夏季等の長期休暇中に一気に進める方もいらっしゃると思いますが、私はそうしたタイプではありませんでした。私は、毎日1行でも、仕事のすきま時間に思いついたことを書きとめることを心掛け、日々少しでも前進させることを意識しました。

論文を書くというのは、非常に孤独な作業です。自分だけで進めていくと、どうしても行き詰ってしまうことも多くあります。そのようなときに、先生方から「うまくいっているよ」「頑張ってるね」といったささやかな言葉をいただくだけで、モチベーションが上がり、また明日から頑張ろうという気持ちになりましたね。

これまでの勉強では、基本的に課題があらかじめ設定されており、それをどのように解法するかといった姿勢が求められてきましたが、博士論文はそれとは異なるものです。まずは課題そのものを自分自身で設定し、それを学術的な視点からロジカルに説得していく姿勢が問われることとなります。これまでと頭の使い方が明らかに異なるものであり、こうした作業を繰り返すことで、論理的な思考力が身についたと感じています。

## 埼玉大学大学院の良さはどこにありますか？

### >Kさん

私は実は、業務や諸事情により一度休学をしています。ところが、この間にも大石先生はずっとご指導をしてくださいました。本当に励ましていただいて、遅々として進まない私の研究に様々な角度から助言を頂きました。おかげで復学し、博士論文を提出することができました。一時は継続を諦めかけていました。本当は諦めてたんですけども…大石先生をはじめ、講義を通じて参考となる論文や書籍を教えてくださいいただいた先生方、ともに学んだ皆さんや親切に接して頂いた職員の皆さん、埼玉大学大学院でのすべての経験、出来事に感謝しています。

卒業した現在も大石先生の研究会に参加しています。院生の皆さんや卒業生との触れ合いを通じ、非常に刺激を受けています。博士論文出版の目途も立ち、これからも研究を続けていきたいと思っています。卒業生の一員として、皆さんには、ぜひ、埼玉大学大学院に進学されることを強くおすすめします。

### >長谷部さん

私の主指導教官は中川忍先生でした。先生は日本銀行の局長まで勤め上げられただけに、実務経験に裏付けられた高い学識をお持ちであることに加え、懐が深く人情味にあふれ、大変尊敬のできる先生でした。先生には、メールだけでなく、平日にもTSC（神田にあるサテライトキャンパス）に何度も足を運んでいただき、大変有益な助言と励ましの言葉を数多くいただきました。

本大学院は、私のようなやや学際的なテーマの研究であっても許容される度量の広い大学院であると思います。そして、入学当初から、主指導教官のほかに、副指導教官が2名つき、それぞれの先生方の専門的視点から指導いただくことが可能です。こうした手厚いサポートをしてくださる先生方が本大学院には沢山いらっしゃると感じておりますので、是非皆さま、積極的にアプライしてみてください。

**我々教員も、社会人の方々とコミュニケーションを心から楽しんでいます。**

**お二人とも本日はありがとうございました**

埼玉大学 経済経営系大学院は博士課程修了生のうち  
2名に1名以上、実に37名が大学教員として活躍しています。

大学院受験にあたり、指導をお願いしたい教員に事前連絡をした方がよいのか？という質問を多くいただきます。事前の連絡は取っていただいてもどちらでも大丈夫です。教員の専攻だけでなく教員との相性もありますので、特に博士課程の受験を検討しているのであれば、連絡を取った方がよりよいと思います。研究計画書の内容は、審査対象になるため直接指導はできませんが、研究の方向性を相談することはできます。多様な分野を受け入れ可能な土壌があるとはいえ、教員が指導可能かを確認するためにも、相談することをおすすめします。

今回お話を伺った長谷部さんは他の大学院で修士課程を修了し、博士後期課程から本学へ進学されました。しかし、博士後期課程の入学審査は、修士論文も含めて行いますので、研究分野が変わると博士後期課程からの入学は容易ではありません。博士後期課程で予定する研究に関係した既発表の論文があればよいですが、ないとすれば修士課程から入学することが近道になります。そのあたりも含めて、入学を検討していただければ幸いです。

**次回の特集もお楽しみに！**



**埼玉大学大学院でお待ちしています**